令和６年１２月越前町議会定例会

（第２号）

令和６年１２月５日

目　　次

第２号（１２月５日）

○出席議員及び欠席議員氏名……1
○会議録署名議員の氏名……1
○職務のために議場に出席した者の職氏名……1
○地方自治法第１２１条により説明のため出席した者の職氏名……1
○議事日程……2
○開　　議……3
○一般質問……3
石　田　和　朗　君……3
木　村　　繁　君……6
長谷川　眞　惠　君……１０
○散　　会……１２

出席議員及び欠席議員氏名

議席番号	氏名	出席	欠席	摘要
1	小松　高宏	○		
3	吉田　憲行	○		
4	石田　和朗	○		
5	長谷川　眞惠	○		
6	中西　　清	○		
7	髙田　浩樹	○		
8	藤野　菊信	○		
9	米沢　康彦	○		
１０	佐々木　一郎	○		
１１	伊部　良美	○		
１２	笠原　秀樹	○		
１３	木村　　繁	○		
１４	北島　忠幸	○		

会議録署名議員の氏名

１番議員	小松　高宏	３番議員	吉田　憲行

職務のために議場に出席した者の職氏名

事務局長	山口　隆司	事務局次長	岡田　寿子
事務局書記	安井　正樹		

地方自治法第１２１条により説明のため出席した者の職氏名

町　　長	青柳　良彦	副 町 長	出口　俊一
教 育 長	大川　伸介	総務理事	菅原　辰彦
民生理事	荒井　基志	産業理事	水島　博之
建設理事	原　　雅哉	会計管理者	佐々木　直人
教育委員会事務局長	髙木　剛彦		

令和６年１２月越前町議会定例会議事日程〔第２号〕

令和６年１２月５日（木）

日程第　１　一般質問

開議　　午前１０時００分

○副議長（藤野菊信君）　おはようございます。

本日は、佐々木議長より午前中の欠席届が提出されております。したがいまして、議長に代わり私が議長の職を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

ただいまの出席議員数は１２人です。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

議事日程については、お手元に配付のとおりです。

日程第１　一般質問

○副議長（藤野菊信君）　日程第１　一般質問。

昨日に引き続き一般質問を行います。

本日は、一括質問一括答弁方式での質問を行います。

４番、石田和朗君。

４番（石田和朗君）登壇

○４番（石田和朗君）　丹生郡から旧清水町と越廼村が福井へ移り、朝日、越前、織田、宮崎の４か町村が合併して越前町となって、艱難辛苦を乗り越えて２０年、うちの孫娘もはたちのつどいです。

越前町合併２０周年を記念して、越前町はカメリアホールで祝典を盛大に開催いたしました。町関係団体の中には、越前町合併２０周年記念を冠にして、大会やイベントを催して盛り上げております。

その中の一つ、越前町文化協議会は、１１月２３日、カメリアホールで越前町２０周年記念を冠に、２０２４越前町音楽祭を開催、２部構成で、第１部は福井県出身の音楽高校や音楽大学に通う若手のピアノ・フルート・サックス・オーボエ・バイオリン、そしてマリンバを交えた演奏曲は観衆を和ませ、万雷の拍手で、いつの日かまた越前町で再会を期待されるグループでした。第２部は、九州福岡を拠点に活動するミュージシャン４人、若さと個性が光る見ごたえと聞きごたえのある演目で、すばらしかったです。

議長のお許しを得ましたので、通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

県内の各市町で進められている全天候型子どもの遊び場についてお伺いします。

福井県の肝いり事業として全天候型子どもの遊び場を整備することに対し、県内９市８町にそれぞれ１億円の補助金が交付されることとなっています。各市町では、候補地、設備の内容、活用の方法、維持管理、補助金を超過する場合の自主財源の確保といった検討項目があり、結論を出すまでには相当の苦慮があるのではないかと思われます。

当町においても、他市町の同事業の進捗状況や事業規模といった情報収集のほか、事業の履行期限が迫っていることからも、今年度の子どもの遊び場整備基本計画策定委員会の設置や計画策定業務委託などの関連予算の計上といった動きが見られています。

さきの９月定例会には、子どもの遊び場整備基本計画策定委託料５５０万円が補正予算と計上され、会期中の５日には、候補地とされる３か所の現場踏査を行い、担当課長から策定委員会で出された意見を基に説明を受けました。

現場踏査を行った施設は、朝日地区の福井総合植物園プラントピア朝日、宮崎地区の花みづき炎ぼの館、同じく宮崎地区の越前陶芸村文化交流会館の３施設であり、策定委員会のメンバーである議会選出の議員からも検討結果の報告を受けています。

①のプラントピアは、既存の部屋の手狭さ、細かな間仕切りがあり、子どもたちへの目配りが課題。②の炎ぼの館は、大きな空間であり、自動シャッターにより側面が開閉できるといった使い勝手のよさは評価できるが、広過ぎるワンフロアーの室内という構造上、空調設備や用具等の備品格納庫、遊具類の設備の仕切りなどに相応の費用がかかって支障がある。③の文化交流会館は、陶芸村の中心にあり、大駐車場があることや、晴れた日には屋外の芝生広場で元気に活動できるというように、立地条件がよいといった意見が出されたとのことでした。

私としては、その中でも、越前陶芸村文化交流会館は、一流の音響で最高級のピアノを備えた県内外に誇れる音楽堂としての一面もあり、そこで奏でられる音色は心に響くものがあります。さらには、和太鼓やマリンバの演奏会、かつては落語家などによる演芸があったことも印象に残っています。また、現在は、施設のロビーを活用し、越前焼の展示や販売、企画展の開催など、日本六大古窯である越前焼の殿堂であり、宮崎地区における宝物館であると私は思っています。

現代は、少子高齢化が進み、人口減少時代にあり、ふるさと越前町の創生を目指し、青柳町長のモットーである人に優しく地域に優しいまちづくりを実現されるためには、解決していかなければならない課題が多いと思います。

以前、私は一般質問において、「銀も金も玉も何せむに　優れる宝　子にしかめやも」と、万葉集、山上憶良の歌を引用し、子どもは宝で万金に値すると述べました。そういう意味では、全天候型の遊び場を整備することに対しての異論はありませんが、しかし、やはり、越前陶芸村文化交流会館という文化の薫る立派な建物に対し、外科手術のごとくメスを入れて改修工事を行うことには納得できない思いを持っています。

私が思い描いた子どもの遊び場とは、安全な芝生広場、砂遊び、水遊び、緩い傾斜でスケートボードができるといったもの、元気な子どもたちにとって楽しい施設を思い描いていました。私自身、スキーシーズンになると、県内はもちろん、白山山麓や栂池高原、志賀高原といったスキー場に出かけシニアスキーを楽しんでいました。が、３年前、突然、脊髄梗塞になり、歩行が不自由になりました。発症後は毎週のリハビリに努め、励み、今では、グランドゴルフやボッチャ、輪投げ大会などのスポーツ大会にも参加できるまでになりました。

先日、越前町の合併２０周年記念イベントとして、越前町ふれあいスポーツ大会が開催され、例年は身体障がい者協会の会員のみの催し物でありましたが、今回初めて、民生児童委員にもご参加いただき、一緒に競技をすることで、拍手や笑い声が絶えず、親睦も深まり、大変盛り上がったことから、次回からも継続して行うことができることを期待して閉会しました。

その大会には、越前町内各地から、マイカーや相乗り、近くの方は電動シニアカーで来られる方もおられました。そこで、ふっと思ったのですが、子どもの遊び場を利用されるのは、子どもはもちろんですが、子どもたちを送迎したり一緒に遊んだりするのは、親御さんだけでなく、おじいちゃんおばあちゃんも一緒に利用することになるのではないか。また、その障がい者の方もいらっしゃるのではないかと。障がい者には身体と知的がありまして、他人に知られることを嫌がられる方もおられます。それでも、障がい者スポーツに取り組み、さきのパラリン

ピックなどでは輝かしい成績をおさめられている方もいます。が、その中には、幼いころは、いじめや仲間外れにあうことを恐れて、障がいの部位を隠して遊んでもらったが、つらかったと言っておられたことも印象に残っています。

いずれにせよ、子どもの遊び場には全ての子が遊べる道具を設置して、健常児も障がい児も分け隔てなく一緒に遊べる遊具や設備が必要ではないかと思います。障がい児は遊べなくても仕方がないというような概念を持たせない、そうした当たり前を更新することで、赤ちゃんから高齢者までの誰もが好きなように施設を利用でき、幸せを感じられることで優しい社会づくりの実現に結びつくと思います。

そこで、これらを踏まえて、青柳町長にお伺いします。

１つ目は、越前陶芸村文化交流会館を子どもの遊び場として整備することは町民にとって本当に是とお考えなのでしょうか。２つ目は、健常児も障がい児も、そしてお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんも一緒になって遊べる遊具設備の整備は、子どもの遊び場基本計画に的確に盛り込まれていることになっているのか。

以上、簡単ですけれども、町長のご所見をお伺いします。

○副議長（藤野菊信君）　町長。

町長（青柳良彦君）登壇

○町長（青柳良彦君）　それでは、石田議員の質問にお答えいたします。

子どもの遊び場整備事業実施の方向を示してから今日まで、機会あるたびに月例会等において説明させていただきましたが、町では、利用する子どもや保護者の意見を第一と考え、昨年６月に町内１２保育施設の保護者代表など１６名で構成する子どもの遊び場整備検討会を開催し、候補地１２か所のリストアップ及び遊び場に求める要件の明確化を行いました。

今年度には、学識経験者等で構成する子どもの遊び場整備基本計画策定委員会及び役場関係部局、専門知識を有する職員等で構成するプロジェクトチームにおいて、遊び場に求める要件に基づき検討を重ねた結果、越前陶芸村文化交流会館への整備が最も適しているという判断をいただきました。

ご存じのとおり、越前陶芸村は、町内のどこからもアクセスがよく、休日は芝生広場や屋外遊具などで楽しむ多くの親子連れでにぎわっています。町としましても、その玄関口にある当施設への子どもの遊び場整備は、子育てしやすいまちづくりの一翼を担うと考えており、議会のご同意を賜るとともに、町民の方々のご理解を得ながら進めてまいります。

次に、子どもの遊び場整備基本計画では、障がいの有無を問わず、全ての利用者が楽しく遊べる施設となるよう、全天候型の施設とし、遊具だけではなく、休憩スペースなど、施設全体を通した工夫を凝らしたいと考え、基本計画策定委員には学識経験者や障がい福祉関係者を委嘱し、専門的な知見を踏まえた意見をお聞きしながら検討を進めているところです。

今後は、子どもたちのチャレンジ精神や好奇心を刺激し、創意工夫しながら遊ぶことができる越前町らしい遊びの空間が提供できるよう検討を重ねるとともに、保護者が子どもの遊んでいる様子を眺めながら快適で安心して過ごせる工夫を施すなど、何度でも訪れたくなるような施設を目指してまいります。

以上です。

○副議長（藤野菊信君）　石田和朗君。

○４番（石田和朗君）　丁寧な答弁ありがとうございました。

この町は、急速に少子高齢化が進み、せっかくの子どもの遊び場から子どもたちの姿が見られなくなるかと心配もしています。新規の建物や施設には必ずランニングコストが発生し、場合によっては町のお荷物になります。早い段階から全ての住民、特にシルバーの遊び場という場合に、シフトも視野に入れてよりよい方向を考えて進めていただきたいと思います。よろしくお願いします。答弁は要りません。終わります。

以上です。

○副議長（藤野菊信君）　これで、石田和朗君の一般質問を終わります。

次に、１３番、木村　繁君。

１３番（木村　繁君）登壇

○１３番（木村　繁君）　本年のメジャーリーグは大谷選手で始まり、大谷選手で終わりました。まさにショータイム、ワールドシリーズ制覇で幕を下ろしました。そして、大谷さん、個人的には、５４本のホームラン、５９の盗塁、メジャー初の５０－５０、異次元の大活躍で、ＭＶＰ、最優秀選手。アメリカンリーグ、ナショナルリーグ、リーグをまたいでの受賞は１９６６年以来５８年ぶりの快挙でした。

そこで、私の自家用車のナンバーは、現在１１３３です。王選手の背番号１、長嶋選手の背番号３に倣ったものです。最近、中古車を購入しまして、その際に、大谷選手にあやかって５４５９に変更しようと随分迷いましたが、私の中では、ＯＮ、王さん、長嶋さん、ＯＮ砲は永遠のヒーロー、そして、今もお二人ご健在です。ジャイアンツ愛とともに、王さん、長嶋さんを忘れてはいけないという思いで、車のナンバー１１３３、そのままです。

議長のお許しを得ましたので、通告書に基づき一般質問をいたします。

本年８月２９日に開催されましたパリ・パラリンピックは、９月８日の閉会式とともに全競技が終了しました。障がいのあるアスリートの限界に挑む姿が感動を呼ぶとともに、多様性を認め合うことの大切さを全世界に発信をしました。スポーツ庁の２０２３年度の調査によると、障がい者が挙げるスポーツの効果は、ストレス解消をトップに、体力・身体的機能の向上、行動範囲の拡大、そして、自信がついた、友人が増えたなどが続くそうであります。このように、心身の効用だけでなく、社会参加を促す上でも大きな役割を果たしていることが分かります。

しかし、障がい者にとってスポーツはまだ身近とは言えない現状があり、同庁の調査では、健常者、障がい者を問わず、二十歳以上の方でスポーツを週１回以上行う割合は５２％に上りますが、障がい者に限ると３２．５％にとどまります。また、障壁はなく、十分に活動できているとの回答は１７．４％にすぎません。こうした状況を改善するためには、施設面の整備を進め、地域にある公共スポーツ施設のバリアフリー化の加速と、その施設を利用してボッチャなどのパラスポーツの練習会や競技会を数多く実施するなど、指導者の育成や用具の開発なども大変重要であります。

そこで、本町における障がい者のスポーツ参加に向けた取組状況、施設面の整備及び今後の強化策について、町長のご所見を伺います。

次の質問に移ります。

福井県は、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現に向け、本年３月に策定した第二次福井県自殺対策計画に基づき、自殺未遂者が搬送された医療機関から、保健所や健康福祉センターが個人情報を本人の同意を得て受け継ぎ、公的支援につなげる新たな仕組みを運用しているそうであります。

福井県における自殺者の推移は、２００３年の２４６人をピークに減少傾向にあ

り、コロナ禍の２０２０年は１２６人、２０２１年は１２８人、２０２２年は１１４人と、２００３年の半数以下になっています。しかしながら、その一方で気がかりなのは、自殺者に占める自殺未遂経験者の割合で、２０１８年から２０２２年の自殺者のうち、自殺未遂を経験したことがある人は約２割を占めるなど増加傾向にあり、リストカットや市販薬の過剰摂取などの自傷行為で救急搬送された自殺未遂者も年々増えており、２０１９年の１２７件に対して、２０２１年は１５４件に上っています。

このため、県のほうでは、自殺未遂者への積極的支援を明記し、一連の流れとしては、自殺未遂者本人の同意を得た上で、医療機関が保健所や健康福祉センターに個人情報を提供し、まずは、県や市町の保健師が自殺未遂者の自宅を訪問して、関係性を構築しながら、未遂に至った要因分析や心身のケアに当たり、その後、多重債務で悩む人には弁護士会を、生活困窮者には自立支援センターなど、必要な支援が受けられる機関につなげるというものです。

県のほうでは、２０２７年までに自殺死亡率、人口１０万人当たりの自殺者数を２０１７年の１５．６人から３０％減少させ、１０．９人以下にすることを目標に掲げているそうであります。本町においても、２０２０年３月に、誰も自殺に追い込まれることのない町を目指してということで、越前町自殺対策計画の策定をしておりますが、県の第二次計画を受けて、本町における自殺者並びに自殺未遂経験者の直近５か年の実態及び今後の取組みについて、町長のご所見をお伺いします。

最後の質問です。

本町には越前焼の聖地、越前陶芸村、そして周辺には若竹荘、樹香苑などの施設があります。若竹荘においては、泉質のよさから、町内外からの来客も多く、大変喜ばれておりますが、浴室が狭いことから、もっと拡張できないかというご意見をよくお聞きします。こういった声は、理事者の耳にも届いているかと存じます。

また、樹香苑は、宮崎地区にたった一つの木造料理旅館で、町内外からの宿泊者も多いとお聞きしております。本年３月の北陸新幹線福井開業など、新しい時代を迎える中、今後、より多くの方に本町、また越前陶芸村に足を運んでいただくために、越前陶芸村はもちろんですが、周辺施設を含めて再整備、再構築、あるいは施設の大改修などの計画を検討されておられるのか、検討されているならば、その方向性と現状について、町長のご所見をお伺いします。

○副議長（藤野菊信君）　町長。

町長（青柳良彦君）登壇

○町長（青柳良彦君）　それでは、木村議員のご質問にお答えいたします。

初めに、障がい者のスポーツへの参加についてですが、障がい者を対象としたスポーツ大会として、福井県では、卓球やボッチャ、陸上などを種目とした県障がい者スポーツ大会が開催されています。

また、本町身体障がい者協会では、ペタンクなどのスポーツ大会を行っており、町では、協会の活発なスポーツ活動に対して活動補助金を交付しています。先月には、合併２０周年記念イベントとして、身体障がい者協会と民生委員、児童委員が親睦と交流を目的に、ふれあいスポーツ大会を開催し、参加者は１５名にとどまったものの、ボッチャなどの競技を存分に楽しめたと好評を得ています。そのほか、町では、障がい者も含め、町民に広く楽しんでいただくスポーツ活動として、誰もが気軽に参加できるウォークラリーやモルックなどの体験教室を実施

しています。
　現在のところ、障がい者の参加は少ない状況でありますが、ふれあいスポーツ大会の開催を契機に、障がい者協会、民生委員からは、こうした大会などの積極的な開催について声が上がるなど、機運は高まりつつあります。
　一方、町内における施設の整備状況としては、社会体育施設のバリアフリー化を進めており、各地区に１か所はバリアフリーに対応した体育館を確保しています。また、朝日総合運動場や陶芸村スポーツ広場などには多目的トイレを既に設置しています。今後は、障がい者等による機運の盛り上がりに応え、障がい者の社会参画など、スポーツを通じて得られる効果を多くの皆様にご享受いただきたいと考えています。
　町障がい者協会など、関係団体の協力を得ながら、大勢の参加を促す企画を検討し、スポーツ推進委員には、障がい者に対する適切な対応の研修を行うなど、障がい者の積極的なスポーツ参加に向けた体制を構築してまいります。また、参加者の増加に伴い、必要に応じて、用具の充実、使いやすい施設の整備にも努めてまいりたいと考えています。
　次に、自殺対策計画についてお答えいたします。
　越前町において、令和元年から令和５年の５年間における自殺者数は２０人で、年平均４人となっています。性別では、男性１５人、女性５人。年代別では、５０代が最も多い８人で、次いで、３０代が３人、２０代、６０代、７０代、８０代がそれぞれ２人、２０歳未満が１人となっています。また、自殺者のうち自殺未遂経験者は２人で全体の１割を占めています。
　次に、自殺未遂での救急出動回数は、５年間で３８回になり、年平均７．６人の自傷行為があったという計算になります。
　自殺未遂者のうち、議員のご質問にありました今後の支援につなげるため、県から越前町に情報提供があったケースは今のところございません。
　現在、越前町では、越前町自殺対策計画に基づき、基本的な施策としては、町民を対象とした心を癒やす相談会を毎月開催しているほか、児童・生徒やその保護者を対象とした心の健康づくりセミナーを行っています。
　また、悩んでいる人に気づき、支援につなげる役割を担うゲートキーパーを養成する講座を、住民の身近なところで活動している保健推進員、介護予防サポーターや役場職員などを対象に行っています。
　重点的な施策としては、介護予防サポーターの養成など高齢者への支援を行っており、生活困窮者、暮らしの困り事に関しては、各担当課窓口で随時相談を受け付けています。
　児童・生徒や保護者の支援としては、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置するなど、それぞれの施策に自殺対策の観点を含めるように努めています。県の第二次福井県自殺対策計画の策定を受け、来年度第二次越前町自殺対策計画を策定する予定ですので、今までの施策の効果等を評価・検証し、策定後は県の新しい取り組みも含めて、それぞれの施策が自殺対策基本法の基本理念である生きることの包括的な支援の効果的な実施に結びつくよう努めてまいります。
　最後に、越前陶芸村の再整備についてお答えいたします。
　越前陶芸村は、昭和４６年に整備された県有施設で、陶芸公園を中心とした憩いの場として、また、福井県陶芸館、越前古窯博物館など、越前焼の拠点として多くの観光客に訪れていただいているところです。しかしながら、その入込み客数

は、直近の１０年間においては、平成２７年の約２８万人をピークに、令和５年度は約１１万７，０００人まで減少しており、施設全体の老朽化も進んでいます。

また、議員ご指摘の町有施設、若竹荘及び樹香苑についてですが、若竹荘は、その泉質のよさから、町内外から年間約２万人のご利用がありますが、昭和５５年に整備以降、平成元年に増改築を行ったものの、浴槽から漏水が発生するなど、施設や設備の老朽化が顕著になってきており、利用者の方からは、浴室の拡張についてのご意見をいただいておりますが、容易に改築できる状況にありません。

また、樹香苑については、５年間の賃貸契約をしている民間業者による運営のため、正確な入込み数は把握しておりませんが、かにシーズンにおいてはほぼ満室状態であると伺っています。しかしながら、当施設についても、昭和６２年の整備以降３８年が経過し、老朽化に加え、客室も５部屋と少なく、お風呂、トイレが共同であるなど、近年のお客様のニーズには合わないことが課題となってきています。

このような中、町では、県に対して、令和７年度の重点事項として、越前陶芸村の再整備と周辺町有施設の再整備に対する支援を要望しており、県からは、陶芸村は、越前焼の産業面、観光面でも重要な施設であり、その魅力を高めるため、県と町が同じ方向性で情報を共有しながら再整備を考えていきたいとの回答をいただいています。町としましては、若竹荘、樹香苑を含めた町有施設の在り方や改修については、県が今後検討しようとしている越前陶芸村の整備と歩調を合わせ、一体的に取り組んでまいりたいと考えておりますので、議員におかれましては、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

以上です。

○副議長（藤野菊信君）　木村　繁君。

○１３番（木村　繁君）　町長におかれましては、明確なご答弁をいただきました。感謝を申し上げます。

質問２の自殺対策計画のご答弁の中で、年代別では５０代が最も多いというご回答がありました。いわゆる働き盛りとともに、相当、その職場での地位も上のほうに来ている年代かなというふうに思いますし、気になるのが、当町で自殺未遂での救急出動回数が５年間で３８回、年に直しますと、答弁のとおり、年平均７．６人が搬送されているということで、いずれにしましても命に関わることです。人間の命というのは本当に貴いものがあるかと思いますので、今後、ご答弁にもありましたが、県のこの自殺対策計画に基づいて、当町でも、来年、第二次越前町自殺対策計画を策定するというご答弁がありましたので、ぜひとも、命に関わることでありますので、よろしくお願いを申し上げたいというふうに思います。

それに、３番目の質問のところで、ご答弁に、越前陶芸村入込み客数は直近の１０年間において、平成２７年の２８万人から、令和５年では約１１万７，０００人まで減少しているということは、直近３年のコロナ禍を割り引いても２８万から１１万７，０００ですから、約１６万人減少しているという数字になろうかと思いますが、落ち込みが非常に激しい。

陶芸村というのは、陶芸まつりだけの陶芸村ではありません。越前焼振興のメッカ、聖地であると同時に、越前町にとっても貴重な、観光面での重要な場所であります。この１６万人の減少、いろいろ原因があろうかと思いますが、なかなか難しい面があろうかと思いますが、ぜひとも、宮崎地区の陶芸村にいま一度光を当てていただきたいと。これは痛切に町長にお願いをしておくと同時に、先ほど、県に対して、来年の重点事項として、越前陶芸村の再整備と周辺町有施設の再整

備に対する支援を要望しているということで、県のほうからは、陶芸村は越前焼の産業面、観光面でも重要な施設であり、県も町と同じ方向性で情報を共有しながら再整備を考えていきたいということでございますので、このことについては、町長のモットーのスピード感、そして青柳町長の政治力にご期待を申し上げまして、私の一般質問を終わります。

○副議長（藤野菊信君）　これで、木村　繁君の一般質問を終わります。

次に、５番、長谷川眞惠さん。

５番（長谷川眞惠君）登壇

○５番（長谷川眞惠君）　先日、１２月１日日曜日、演奏や歌、一緒に楽しむ越前町、障がい問わず発表、これは、日刊県民福井さんが載せてくださいました。障がいのある人と健常者が一緒になって演奏や歌を楽しむ発表会が越前町社会福祉センターで行われました。趣旨は、できることを精いっぱいというテーマです。

発表会は、一般社団法人えちぜん自立サポートの主催です。音楽を学びながら発表の機会が少ない人たちに演奏の場を提供し社会参加を応援しようと開いたものです。町内のダウン症の男性、３７歳は、３０年以上続けているピアノ演奏を披露しました。指導を受けているピアノの先生と一緒に力強く鍵盤を弾きました。鯖江市の認知症の男性、８３歳は、見事なバイオリン演奏を披露してくださいました。また、男性の息子さんのギター演奏に合わせて、「ふるさと」、「三百六十五歩のマーチ」などを軽やかに演奏してくださいました。その場にいた観客の皆様は、手拍子をしながら笑顔で聞き入っていました。その場におられた皆様は、心を一つにして、手と手を携えて、支え合う姿、光景がありました。競争ではなくて、協力、協調、愛、調和、支え合いを目の当たりにいたしました。皆さん、感動されました。ここで一句、「道しるべならんと花の種をまく」。

こういうことが行われたということを皆様にお伝えしておきます。

それでは、皆様、議長のお許しをいただきましたので、一般質問させていただきます。

公共交通の廃止についてです。

本年９月末をもって、京福バスの清水織田線と西田中宿堂線の、宿堂・天王間が廃止になりました。それまで利用されていた方々、町民の皆様にとりましては、言葉には表わし尽くせない悲しみとショックに打ちひしがれておられることと拝察いたします。

１０月１日からの京福バス、西田中宿堂線、天谷から天王の廃止に伴い、天谷から西田中バスターミナル間、小倉経由を運行する定期便を朝夕に１便ずつ運行していただけるようになっております。代替の車は、チョイソコえちぜん「あさひ号」です。

これについて説明しますと、運賃は一般、高校生２００円、高齢者７０歳以上、小・中学生、障がい者は１００円です。運行ダイヤは平日のみ往復１便で、土曜日、日曜日、祝日は運休になっています。行きの便は、西田中バスターミナルで、福鉄バスの鯖浦線北鯖江駅に７時５７分発と８時３分発に接続されております。帰りの便は、西田中バスターミナルで福鉄バス鯖浦線織田行き１７時４４分着より接続されています。

ここで、町民の皆様のご意見をお聞きいたしましたので、ご紹介いたします。

平日、このように代替の車、チョイソコえちぜんが出ていますが、福井に通勤している町民にとりましては利用できません。とにかく、福井には８時に着かなければ職場に遅刻してしまいます。チョイソコえちぜん「あさひ号」で西田中バス

ターミナルに７時５４分に着いて、福鉄バス鯖浦線と北鯖江行き７時５７分発、８時３分発に乗り継いでも、福井に到着する時刻は、到底８時には着かず、職場の出勤時刻には明らかに役立たずです。これからの人生のため、生活していくためには仕事を続けていかねばなりません。これから先、どうやって生きていけばよいのか途方に暮れています。現在、家族で何度も話し合っています。福井へ引っ越すことも考えていますということです。

また、土曜日に西田中で買い物をして、３時のフレンドリー号で帰ろうと思っていると、土曜日には、そのバスは休みでした。結局タクシーで帰らねばならず、３，０００円もかかりました。年金暮らしなので非常にショックでありました。

それから、役場のイベントをとても楽しみにしている町民の皆様はたくさんおられます。ところが、交通手段がないため、チョイソコえちぜんは、大体イベントは土曜、日曜に開催されるのがほとんどです。本当に参加できなくなり、行けなくなり、とてもかわいそうに思います。土曜日、日曜日に福井に行く用事など、福井以外も全て西田中までですら、どうにも手段がなくて困っていますということです。

それから、平日、福井方面の病院へ行く場合の方、日赤の場合ですが、電車を降りてから病院まで歩かなければいけません。体の具合が悪い状態の方にとっては、これは５分とはいえ非常に大変なことだと理解してほしいですということです。

町民の中には、成人した子どもたちを町外へ出した方がたくさんおられます。教育、通勤などにおきまして、やはり、交通が不便で暮らしていけないと言っています。また、お祭りでも、若い人や子どもが随分と減りました。まずは、若い世代が安心して住める環境を整えないと流出が止まらないでしょう。そしてまた、町おこしのアイデアがあっても、その担い手がいないと実現しません。交通のインフラにご助力いただけますようお願いします。

以上のような様々な町民の皆様のお声が届いています。このような厳しい現実を捉え、町民の声をどのように考えておられるのか、町長のご所見を伺います。

○副議長（藤野菊信君）　町長。

町長（青柳良彦君）登壇

○町長（青柳良彦君）　それでは、質問にお答えいたします。

地域における移動手段については、まずは、公共交通機関の確保、充実を基本とし、公共交通サービスの維持確保を図っていくことは重要であると考えています。しかしながら、経年的な利用者の減少によって公共交通の維持継続が難しくなり、そこに、運転手不足等による路線バスの廃止や減便が生じ、運行事業者の自助努力では限界があると感じています。

今後、将来的に、町が実施主体となり事業を行うこととも視野に入れ、持続可能な運行に向けた取組みを検討していく中で、地域公共交通計画にも明記していますが、例えば、これまでに、路線バスの利用者が少人数の地域では、行政主体の取組みにとどまらず、地域に必要な交通は地域自らが守り育てるという住民互助の観点に基づき、人口減少、運転手不足という時代に適した新たな地域公共交通の仕組みづくりも必要と考えています。いずれにいたしましても、今後は、他自治体の取組事例も参考にしながら、持続可能な新たな交通体系の実現に向けた取組みを進めていきたいと考えておりますので、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

以上です。

○副議長（藤野菊信君）　長谷川眞惠さん。

○５番（長谷川眞惠君）　今、町長の丁寧なお言葉をいただきまして、とても光が見えてまいりました。新たな地域公共交通の仕組みづくりが必要と考えておられるということが、強く心に響いてきました。新たな地域交通の仕組み、本当に未来が明るいですね。だんだんよくなっていくと思います。一刻も早く使用可能な新たな移動手段実現に取り組むことを強く要望いたします。人に優しい越前町、地域に優しい越前町の実現を強く強く要望いたしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

○副議長（藤野菊信君）　これで、長谷川眞惠さんの一般質問を終わります。

以上で、本日の日程は終了しました。

お諮りします。

本日の会議はこれで散会したいと思います。

これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○副議長（藤野菊信君）　異議なしと認めます。

したがって、本日はこれで散会したいと思います。

なお、午後１時から全員協議会を開催いたしますので、定刻までに全員協議会室にお集まりください。

散会　　午前１１時０７分